

# 基礎から学ぶ 障害と医療



## 第3回 感染症の予防

第2北総病院児童発達支援施設かざぐるま  
小児神経科医師  
鈴木文晴

ルの中に遺伝子を入れた構造をしています。自力では増殖できず、ほかの細胞に侵入して栄養を横取りし、自分のコピーを大量に作らせます。単独では生存できず、厳密にはウイルスは生物には分類されません。抗生物質はウイルスには無効ですが、一部のウイルスには増殖を阻害する抗ウイルス剤が開発されています。

**感染症は予防する？  
かかってから治療する？**

世界的に見ると、感染症による死亡は、発展途上国の小児を中心として、まだまだ多いのです。感染症は予防可能であれば予防するべきです。理由は次の3点です。

1. 自分の健康を守る  
自分が病気をうつされない
2. 集団の健康を守る  
周囲に病気をうつさない
3. 医療費節約  
治療するよりも予防するほうが安価である

### 感染症の予防方法

大別して、一般的な予防方法と、ワクチンによる原因菌・原因ウイルスに特異

### 感染症の原因は病原微生物である 病原微生物は2種類に大別される

- ・細菌・単細胞生物であり、適当な温度や栄養があれば、自力で遺伝子をコピーして高速で分裂増殖します。抗生物質は細菌感染症の治療に有効で、細菌の細胞壁の形成や細胞分裂を阻害することで、治療効果を発揮します。
- ・ウイルス・タンパク質でできたカプセル

### ポイント

初回は新型コロナウイルス感染症とメタリックヘルス、2回目は新型コロナウイルスを中心に関心開発事情や感染予防策をお伝えしました。  
今回は、感染症全般についてお話しします。

的な予防方法とがあります。

前者は日頃からの健康管理、マスクや手洗い、下水道やトイレなどの環境整備、感染症の流行状況の情報収集などです(例・2021年7～8月に全国で呼吸器の感染症であるRSウイルスが乳幼児に大流行しました)。

後者は次のような種類のワクチンがあります。初回接種の年齢別に列挙します。具体的な接種スケジュールについては、日本小児科学会のホームページに説明があります。

#### 0歳

ポリオ、ジフテリア、百日咳、破傷風(以上で4種混合)、ロタウイルス、B型肝炎、インフルエンザ桿菌B型、肺炎球菌、BCG(結核)、インフルエンザウイルス(\*)

#### 1歳

麻疹、風疹(以上で2種混合)、水痘、流行性耳下腺炎(\*)

#### 3歳

日本脳炎

(\*)は費用自己負担、ほかは公費負担です。インフルエンザ桿菌B型とインフ

ルエンザウイルスとは一切関係はありません。

子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)は現在、接種推奨されていませんが、近く接種推奨に戻る見込みです。日本では中学生女子に接種、国によっては男子にも接種します。

上記以外に海外渡航の場合に推奨されるワクチンも多種類あり、渡航先と流行状況とにより選択します。

### 学校での感染症対策

学校では新入学児童生徒の既往歴とワクチン歴とをきちんと聞き取りましょう。さらに毎新年度には情報の更新をしましょう。そうすれば校内での感染症発



生時にあわてずに対応できます。まれにワクチンに否定的な保護者がいますが、医学的に接種できない場合は別として、なるべくワクチンを受けよう勧めてください。ちなみにアメリカの小学校は、規定のワクチンを接種していないと入学許可が出ません。

インフルエンザワクチンは集団構成員の70～80%以上が接種するとクラスターが予防できます。児童生徒も教職員もぜひインフルエンザワクチンを毎年受けてください。また個人レベルで見ると、インフルエンザワクチンは毎年繰り返し接種をすることにより効果が蓄積します。で、単年で効果判定をしないようにお願いします。(おわり)